

歳末お餅つき

一人暮らしの高齢者の方により年を迎えていただくため、12月22日、プラザ西伯で歳末お餅つきが開催されました。

約110人のボランティアが臼と杵を使って準備したもち米75kgをつき、出来上がった餅に子ども達を書いたメッセージを添えて、それぞれの世帯に届けられました。

親子で参加した男性は「小学生も地域のボランティアに参加できる楽しい企画で、いいですね」と感想を話されました。



もちをつく参加者

消防団に女性団員が入団



消防団旗を持つ塚田さん

11月2日、南部町の公設消防として初めて女性団員が入団されました。

入団されたのは、塚田夢見子さん（東上）。消防団募集の記事に興味を持っていた時、分団長の松原一雄さんに入団の誘いを受けたことがきっかけです。塚田さんは「消防団での活動を通して、家庭で火を使うことの多い女性の方々に、防火に対する意識の啓発を行いたいです」と消防活動に意欲を見せておられました。今後、消防団の訓練や各種活動に参加される予定です。

多文化交流会

12月9日、総合福祉センターいこい荘で国際交流協会主催の第11回外国語スピーチ発表会＆多文化交流会が開催されました。

約60人が参加し、7組が日頃勉強している外国語で、多様なテーマのスピーチを行い、「耳なし芳一」の英語劇なども発表されました。また、南部町の企業に研修に来ていた外国の方から、日本語でのスピーチも行われました。引き続き行われた多文化交流会では、クリスマスにちなみんだ歌を歌ったり、クイズなどをみんなで楽しみました。



英語劇「耳なし芳一」の発表風景

桜の名所を維持するために



高所作業車での枝打ち

12月2日、テングス病にかかった桜の枝を取り除くボランティア活動が、河畔クラブと町民の有志によって行われました。

作業は午前9時から法勝寺河土手の約1kmに渡って、桜の剪定と回収作業が行われました。ソメイヨシノは長年に渡って美しい花を維持するために、毎年、剪定作業が必要となります。

参加した男性は「町内外の多くの方に桜を楽しんでもらい、末永く町の財産として残していきたいように、みんなで協力していきたいです」と話されました。